

2020年10月5日

各位

大阪信用金庫  
理事長 高井 嘉津義

## 定例調査：第185回 景気動向調査（7～9月期）

- ☆苦闘続く製造業 飲食業・・・製造業-69.1 飲食業-76.3
- ☆先取りする設備投資・・・「実施中」+「予定あり」21.8%
- ☆長いトンネル 暗雲低迷・・・「売上停滞減少」77.6%
- ☆採用意欲後退・・・採用する△4.3ポイント

### ●苦闘続く製造業 飲食業・・・製造業-69.1 飲食業-76.3

総合では、売上D Iが-59.4（前回比+10.9ポイント）、収益D Iが-60.2（前回比+7.5ポイント）と共に上昇しました。売上は前年並みを維持できた企業は増加しましたが、製造業や飲食業ではそれぞれ-69.1、-76.3となり、苦戦が続いています。また、2020年10-12月期、売上D I、収益D Iともに0.3ポイント下落すると予想し、回復の兆しが見えません。売上D Iは、卸売業や飲食業、サービス業がそれぞれと△1.0ポイント、△2.6ポイント、△1.2ポイントと下落を予想しています。年末商戦を迎えますが、観光客の急減や外出自粛要請で落ち込んだ消費マインド回復の見通しは暗く、先行き不透明感が漂っています。

### ●先取りする設備投資・・・「実施中」+「予定あり」21.8%

設備投資は、総合では「実施中」11.4%（前回比△0.1ポイント）、「予定あり」10.4%（前回比△0.7ポイント）で合計21.8%（前回比△0.8ポイント）となりました。

資金調達方法は、「全て自己資金」が41.2%と多く、小規模な設備投資が中心ですが、中には、休業で遠のいた客足を呼び戻すため全面改装を行う飲食店や、生産管理システムを導入し三密解消や間接費削減を進める製造業などもあり、「ウィズ・コロナ時代」を見据えた前向きな設備投資を行う企業が現れています。

### ●長いトンネル 暗雲低迷・・・「売上停滞減少」77.6%

経営上の問題点は、総合では「売上停滞減少」が77.6%（前回比△0.1ポイント）となり、他を大きく引き離し最重要課題となっています。特に、製造業や卸売業では、それぞれ88.7%、82.5%となり苦戦しています。製造業では、コロナ前の受注分は底をつき、新規受注が減少しています。

外出自粛要請で落ち込んだ消費マインド回復には、時間が必要と思われます。

### ●採用意欲後退・・・採用する △4.3ポイント

来春の採用について、「採用しない」が76.5%（前回比+4.3ポイント）となり、採用に消極的な企業が増加しています。建設業や運輸業では人手不足を背景に増員予定が上昇しましたが、他業種では新型コロナウイルス感染症の悪影響から売上の回復が見通せず、採用を控える企業が増加しています。

調査時点：2020年8月下旬

対象期間：2020年7～9月期（実績） 2020年10～12月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,736社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：785社（回答率45.2%）（新型コロナウイルス感染症対策のため郵送で回収）

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL：(06)6775-6590 FAX：(06)6772-1630

E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp URL：<http://www.osaka-shinkin.co.jp>

この街のホームドクター